

研究課題番号	5-2005
研究課題名	播磨灘を例とした瀬戸内海の栄養塩管理のための物理—底質—低次生態系モデルの開発
研究実施期間	令和2年度～令和4年度
研究機関名	愛媛大学
研究代表者名	森本 昭彦

## 1. 委員の指摘及び提言概要

閉鎖性海域の栄養塩の循環と生態系への影響に関して多くの成果が得られ、順調に進捗している。瀬戸内海の栄養塩起源について、興味深い結果が得られ、播磨灘の状況をおおむね表現するモデルが構築されたかと思われる。更に、沿岸域の底質環境の理解も必要と思われる。また、陸域からの負荷は様々な形態（点源、面源）があり把握困難であるが、モデルの検証のために、過去の状況の再現を検討していただきたい。一方で、漁獲量と栄養塩（N）濃度の関係はより一層慎重に考察する必要が感じられた。本研究の成果として、基礎生産が低下していないにもかかわらず、漁獲量の生産が低下したという事について何らかの説明（仮説）が必要である。

## 2. 採点結果

評価ランク：A